

## 令和7年度 第2回栗東市市民参画等推進委員会

- 開催日 令和8年3月18日(水) 19:00~21:00
- 場所 栗東市役所 2階 第1会議室
- 出席者 新川委員長、高野副委員長、村田委員、近藤委員、寺井委員、新川委員、  
幡委員、西川委員、平岡委員  
市民部：的場市民部長  
市民部自治振興課：濱田課長、不破係長、杉山主事補、畑中主事補
- 欠席者 宮川委員

### 議事記録(概要)

#### 1. 開会 進行：自治振興課長

#### 2. あいさつ

##### (委員長)

平日の夜分にお集まりいただき感謝する。市民の方の活発な市民活動が栗東市にも根付いてきていると感じる。なかなか我々が思うように活動が広がらない一方で、根気強く活動を続けている団体もあり、心強く思う。本日は、年度末の会議であるため、市民参画や、協働についてどのような活動があったかということや、来年度に向けてのより良い方向性などについて皆さまと議論したい。限られた時間ではあるが、活発な意見交換が出来るようよろしく願います。

##### (市民部長)

夜分足元の悪い中、本日の会議にご出席いただき感謝する。現在議会の中で、市民参画や協働について議員も関心があり個人質問もあった。その中で、市民が集まり、活動のテーマをグループで設け、制度を活用されている現状であるが、市でテーマを決め、それに関心のある個人が集まるといった仕掛けづくりが必要であると意見をいただいた。その他に、市民が気軽に集まれる場所や機会を積極的に作る必要があるとの意見もあった。本市としても、市民参画と協働は重要と位置付けているが、思考停止に陥らず、今まで実施した取り組みを振り返りながら、新たに必要点は追加し、更なる推進を目指したい。本日は限られた時間ではあるが、よろしく願います。

#### 3. 栗東市市民参画等推進委員会の公開について 傍聴者0名

#### 4.報告事項 進行：新川委員長

○市民活動支援制度の実施状況報告…資料1・2に基づき事務局より説明

(副委員長) 栗太の歴史をつなぐ会の採択の条件として、一般市民が参加できる活動を取り入れること、高校との積極的な連携を図ること、あと1つは何であったか。

(事務局) 残りの条件としては、ジオラマを作成し、それをどう活かすか考えることである。

(副委員長) 3つの条件を付けて採択した後、条件を満たすため活動されている情報などあるか。

(事務局) 高校との連携においての情報はまだない。今年の春に他市町の遺跡などを巡るイベントを開催されるが、その周知に力を入れておられる。成果報告会にも参加いただき、参加者に活動の参加を促すチラシなどを配布されていた。よって、条件を意識して活動されていると感じる。

(副委員長) 3月頃に歴史民俗博物館にてイベントがあり、栗太の歴史をつなぐ会も参加されていたようだが、何か情報はるか。

(事務局) 恐らく、栗太の歴史をつなぐ会とは異なる団体である。

(委員) 未来へつなぐ市民活動応援事業に寄附される方は、市外在住の方が多いのか。

(事務局) 市外居住者でないと返礼品がもらえないため、市外居住者の割合が多いが、活動されているメンバーの親戚などには比較的寄附を頼みやすいとのことから、栗東市内の親戚などから寄附が入ることもある。

(委員) 市内の方が寄附するという事は、返礼品はもらえないが、その団体の活動を応援するという事か。

(事務局) そうである。

(委員) 3月4日(水)の成果報告会の内容などはこの会議にて報告しないのか。

(事務局) この後4.報告事項の栗東市市民参画と協働によるまちづくり推進条例行動計画における令和7年度取組み実績にて説明する。

(委員長) 令和8年度に新しい団体の活動も加わるが、なかなか市民活動が大きく伸びない現状である。このことから、制度が本当に使いやすいものか、市民に制度の認知が行きわたっているかどうか、令和8年度改めて検討するべきである。次年度は更に多くの団体が制度を使い、活動されることを期待する。

○栗東市市民参画と協働によるまちづくり推進条例行動計画における令和7年度取組み実績…資料3・別紙1に基づき事務局より説明

(委員) 成果報告会に参加し、参加者は発表者に質問することが多く、活気があると感じ、

情報交換会の場として良かったと思う。人、世代、仕事内容により、成果報告会に参加しやすい時間が異なり、開催時間に正解はないと思うが、平日の夜間に開催したことは新しい取り組みである。その結果、例年より年齢層が下がり、女性が増えたように感じる。成果報告会が終了した後、自主的に交流をされており、わざわざ交流会を企画しなくとも、イベントなどの後に飲み物やお菓子を置き、残って自由に話せる場所を設けてみるのも良いのではないかと。

(委員) 自治会・地域振興協議会に関するアンケートについて、何か問題となる意見などあったか。

(事務局) 未だ分析が十分ではないが、1月に集計を行い、1178件の回答があった。その結果、自治会について重要であると認識されているが、物理的に関われないという現状の人が多く。そこで、持続可能な自治会運営において出来ることを伺うと、1番多かった回答として、事前に日時が分かれば、サポート出来るが26.9%、季節や時期によってはサポート出来るが26.1%、当日サポートが出来るが21%、SNSで発信が出来るが6.2%、自治会のお知らせなどの作成が出来るが5%、自治会役員を担ってよいが3.2%という結果になった。このアンケート結果に基づき、自治会活動の参加方法や、情報発信の方法について検討しなければならない。

(委員) 自治会活動をすると、新たに活動がしたいと思うことがある。総会自体は成立するが、若い世代の出席率が悪く課題である。

(委員) 自治連合会の役員の依頼数を78件→38件へと40件削減したものは、役をなくしたのか、代わりに市の職員が担っているのがどうなのか。

(事務局) 役ではなく、会議出席などの依頼数である。自治会からの意見を吸い上げるのであれば、自治会長に会議に入ってほしいが、会議数が多いと負担になるため、削減している。この会議には自治連合会の役員を組み込んでいる。以前は地域振興協議会の役員にも出席を依頼していたが、削減した。その代わりに、自治会長経験者の出席をお願いしつつ、現役世代は多くの会議に出なくてよいよう取り組んでいる。

(副委員長) 令和7年度に行った事業での課題や今後したいことの見聞を聞くことや、それについて委員も意見を述べたいため、報告事項でなく、協議事項に組み込むべきである。

(事務局) 令和7年度の取り組みについて資料4に詳しく記載しているため、意見をいただきたい。今年度の主な取り組みについて、委員の皆様からの意見を実践し、市民活動団体の活動を伺う機会を増やすことや、各講座時に情報交換会の機会を設け、団体同士の交流のきっかけづくりを増やすことで見えてくるものがあった。そのことから、来年度以降更に機会を増やすべきである。単発で実施するのではなく、制度化して日常的に行う他、自治振興課だけで行うのではなく、地域にこのような場や市民活動が増える仕組みを作りたい。

(委員) 委員からの意見を踏まえ、活動されており、良い方向に進んでいると思う。市民活動や自治会活動は縦割りになりがちであるため、色々な人を巻き込むことが大切である。自身の考えとして2点あり、1点目は、以前市役所の協働をテーマとした職員研修の講師を行っ

たが、対象者を職員だけでなく、市民活動団体も対象とし、一緒に研修を行い、ファシリテーター役をやってみたり、ワークショップをしてみたりすると、次の具体的な取り組みの土台となる。2点目は、栗東市の市民活動はボランティアを中心としているが、ビジネスや事業要素を足し、地域をより良くする活動をするソーシャルビジネス的な動きをされている団体を模倣してもよいと思う。栗東市でいうと、国の環境省のモデル事業が金勝で活動されており、評価が高い。活動内容としては、企業を巻き込み、研修を実施することや、エコ事業、グリーンツーリズム、地域の歴史を冊子にまとめることを実施された。この事業は若い世代を取り入れたいという課題を持っており、栗東市の制度に登録している団体は子育て系の事業を実施されている団体が多いため、親和性があると思う。面白い活動をされている団体は多くあるため、もう少し手を広げ、つながりづくりを進めていただきたい。

(委員長) 地域で様々な活動を進められており、色々な芽が出ている。市民活動団体が地域の団体と一緒に活動を進めることで更なる発展を遂げられる。情報収集や発信、交流を丁寧に進めていただきたい。

#### ○令和7年度重点施策について…資料4に基づき事務局より説明

(副委員長) 自治会ごとに世帯数が異なる中、同じ数の役員を選出することが難しい。

市からの委託業務として、広報紙を各世帯に配布しているが、広報誌や回覧は必要なのかと思う。

(事務局) 広報紙を市民がどのくらい読んでいるかは分からない。規約としては、広報紙は市民全員に配るとしているため、市からの情報発信する唯一の手段としていた。しかし、現在はSNSが主流になりデジタル版の広報紙も並行している。紙とデジタルどちらが良いかということについては、意見が分かれている。いずれはデジタル版が主流となるであろうが、現在は両方を取っている。中には、知りたい情報が記載されているページを切り取る人もいる。

(委員) テレビや新聞では、自身に関心のないことでも目に入る機会が得られるが、SNSでは関心のある情報ばかりが流れてくる。そのため、デジタルばかりでなく、紙媒体に触れることでためになることがある。

(事務局) 回覧については、各自治会の組で順番を決めて回していると思うが、回覧が必要か不要か情報収集していただき、不要な世帯については飛ばすなど工夫すればよい。

(市民部長) 市の規定の中で、広報紙を「市民全員に配布する」となっており、昔のままである。近いうちに「市民に情報を提供する」というように変更する予定である。

(委員) 広報紙を市民全員に配布するという事は、単身者のアパートなどにも配布しているのか。

(市民部長) そうである。自治会を経て、各組長などが各世帯へ配布している。

(委員長) 市民参画と協働についての情報を必要としている人の元だけに届けるプル型だけで

はなく、無理にでも情報を届ける提供方法もあるため、積極的に進めるべきである。

(委員) 3月1日にボランティアセンターが移転することについて説明いただきたい。

(事務局) ボランティアセンターは以前なごやかセンター内にあったが、栗東駅前のウイングプラザ2階に移転した。そこで新たなボランティアを集められる機会につながると考えている。

(委員) 社会福祉協議会の事業部門(介護保険など)は引き続きなごやかセンターにあるが、ボランティアセンターを含めた地域福祉課、総務課、福祉課が移転となった。そして、今までに来られなかった新たな若い世代の方が来られるようになったと実感している。

(委員) 休日も開館しているのか。

(委員) 社会福祉協議会の部門であるため、基本平日に開館している。

(委員長) 新しい拠点で新しい団体が利用してくれるとよい。

(委員) 制度を卒業し、自立した活動を行うことは難しいと思っていたが、子育てサロンぼっけは制度を卒業することが出来た。成果報告会の際にこれまでの経過をパワーポイントに示されていたが、とても分かりやすかった。ほかの団体に見せると参考になると思う。

(事務局) 代表は様々な所で活動されている。他団体の活動のサポートや、ボラセンのサロン交流、栗東駅前イルミネーションなどに参加されている。

(委員長) 成功モデルを多くの市民に知ってもらうことが必要である。

(委員) つながりづくりの制度化とは具体的にどういったものか。

(事務局) 草津市コミュニティ事業団のくさつラウンドテーブルなどは年に5~6回、しがNPOセンター東近江市のまちのわ会議は年に数回実施されているように、制度化して年に複数回実施できたらと考えている。

(委員) 大事な取り組みである。東近江市では制度化された活動などが活発に行われている。取り組みを始める段階から担い手自体を行政だけでなく、地域で活動する団体と企画、運営することが重要である。地域で活動する団体がつながりづくりの取り組みを主催するなど方法は多くある。実施していく中で、役割分担し、行政だけでなく中間支援組織に実施してもらうことや、団体と連携していくなど将来的なイメージを見据えつつ、検討していただきたい。

(委員長) 最初の段階は行政でスタートする必要があるかもしれないが、その中で行政、中間支援組織、団体のやるべきことや、団体が育つと役割を任せるなどの展望を持って考えていただきたい。まずはトライしないと分からないため、つながりづくりの場を自治振興課で数回設け、いずれ関心を持つ団体を中心に開催していただくと良いかもしれない。栗東市の望ましい姿を想像し、見通しを持って動いていただきたい。

(副委員長) 栗東駅周辺まちづくり基本方針の見直しのため、都市計画課がワークショップを市民と行い、行政で行うこと、協働で行うこと、市民で行うことについて整理した。その後参加した人は時間を割いたのにも関わらず、作りっぱなしで動きがない。協働を進める中で信頼関係は重要であると思う。進捗状況などを報告していただき、コミュニケーションを

取ることを意識するべきである。

(事務局) 都市計画課のマスタープランを策定するにあたり、ワークショップを実施し、行政、協働、市民で行うべきことをリストアップして分けたが、実際各課で実施し、進捗管理を行うことは難しく感じる。

(市民部長) 市全体で見ると、結果的に市民と協働で事業を進めている課がある。例えば、農業を推進している課であれば生産者とのコラボや、福祉を推進する課であれば、福祉団体と一緒に事業を進めることや、保育園では保護者と関わることで、商工観光労政課は企業とコラボなどがあげられる。立ち上げの際の職員の思いがあっても、職員の異動で事業が続かないこともある。毎年職階を変えて協働をテーマとした職員研修を実施し、どの課においても市民参画と協働の意識付けを忘れないよう働きかけている。

(副委員長) 学区要望の回答から、各課で温度差があると感じた。

(委員) 保育の仕事をしており、出張で託児などを行っている。草津市で会議などがある際に依頼を受け、託児をする。栗東市でも母親が参加しやすい環境を整えることで、新たな担い手の確保につながる他、子育て以外の時間ができ、リフレッシュにもなると思う。

(委員長) 市民活動に関心のある方が少しでも参加しやすい環境をつくることは重要である。我々も母親が参加しやすい環境を整える視点が足りなかったため、取り入れていきたい。

(委員) 守山市民を対象としたワークショップを開催する際のチラシにも、託児サービスや、特別な支援が必要な方に向けたサービスについて記載がある。その際に、障がいがある方も参加しており、得難いことだと感じたため、是非取組みを進めていただきたい。

(副委員長) 自治会で情報提供するために、ホームページやチラシを作成することが大変である。よって、コミセンのホームページに各自治会の情報を掲載したい。

(事務局) そのようなご意見はあるが、ホームページを間借りすることは難しい。自治会の紹介などのテキストベースを掲載することは可能かもしれないが、頻繁に更新は出来ないかもしれない。

(副委員長) 自治会でどのような活動が行われているか知られていないことから、自治会に入らない人が多いと思ったため、ホームページなどで活動を周知したい。

(市民部長) 自治会の紹介であれば、自治連事務局でホームページなどを作成すれば、可能かもしれない。ホームページに掲載したいという希望者のみでも状況を見ながら進めていきたい。懇談会の際に自身の自治会のホームページを作成しているため、市のホームページにリンクを掲載して欲しいという要望があった。しかし、セキュリティの観点から厳しいという結論であった。

(副委員長) 希望を聞くなど情報を集め、要望が多ければ検討していただきたい。

(委員長) 自治会で Facebook や LINEWORKS を活用しているところもある。自治会に周知の方法を伝えることも自治振興課の役割である。

(市民部長) 自治会を周知する場を設けるなど、検討する。

(委員長) 地域の個性を活かした活動が活発になるよう進めていきたい。職員研修については、中間支援組織をどう育てていくかということや、市民に中間支援組織の存在を知っていただくことも課題であるため、職員と市民を対象とした合同での研修を実施していただきたい。市民活動の支援を活発化させていく中で、コミセン、ボラセンの役割について大きな転換期を迎えると思う。情報共有を行い、連携を強化していただきたい。そして、今後の支援制度のあり方について、なかなか実施団体が大きく伸びない一方で、これまでの活動がモデルとなるためにも、広く市民に周知し、興味を持てる活動の応援、触発の方法について工夫していただきたい。つながりづくりに関しては、最初は市のほうで声かけを行い、議論をすることから始めていただければよい。定期的を開催することで、新しいものが生まれ、可能性が広がる。是非とも令和8年度以降実施していただきたい。

(事務局) 次年度以降新たな取り組みを進めていくため、適宜アドバイスをいただきたい。

(副委員長) 市民活動に携わる市民の活気ある明るい場に参加出来て嬉しく思う。まちづくりは、道路や建物のようなものでなく、目に見えない文化として残すため、難しく思う場面もあるが、市民のやりがいや、生きがいづくりや、地域のつながりを深めるために必要な取り組みであるため、協力しつつ今後も市民参画と協働を推進していただきたい。

## 5.その他

## 6.閉会